

「聖く保つ」

～あなたの心は洗われていますか？～

Ⅱ ペテロ 3 : 8 ~ 14

最近・・・

最近、「見た目はきれいだけど部屋は汚い」「お風呂は週に1～2回、シーツは1年以上洗っていない」という汚くても平気な女性があります。日本は恵まれた国です。衛生管理がされているので、毎日衛生的に暮らせる環境が整っています。では、心はどうでしょう？これらと反比例して、外見がきれいでも心の中はどんどん貧しくなっているのではないのでしょうか。日本よりも貧しい国であるフィリピンには精神病患者がいません。なぜいないかという、フィリピンの人たちは、貧しくて大変だけど周囲の人と、全然知らない人とも助け合って生きています。今の私たちは、外見は着飾っても、心はひび割れてきています。そして、それは衛生的に暮らしてもおなかいっぱいにご飯を食べても治りません。その心の汚さを治すことはできないのです。失敗しても素直に「ごめんなさい」が言えない、「だって〇〇が悪い」と言い訳をする、「人格を全否定された」と自分が被害者になるなど、汚い行動が出てしまうのです。では、どのようにしてこの心の汚さを治せば良いのでしょうか？私たちの人生はまるで「肝硬変」です。最初はきれいなものでした。それが少し表面の悪い慢性肝炎になって、それが悪くなって肝硬変、それがさらに悪化して劇症肝炎、最後は肝癌・・・そして、肝臓は無言の臓器なので、気がついた時にはもう遅い！と言う、取り返しのつかない事態に陥ることがあります。私たちの心も同じなのです。外側をどれだけキレイにしても内側が癒やされていないと私たちは神さまの輝きを放つことができません。今回の聖書箇所はⅡペテロ3：8～14です。「14節：しみも傷も無いものとして」とあります。私たちは、肝炎のようになってしまった心が取り返しのつかない肝癌にならないように神さまに祈らなければいけません。そしてその祈る方法は、「神さま、わたしの心を見て洗い聖めてください」とお祈りするのです。とても簡単です。でも大事なことがあります。それは、「自分の心が汚い」と認めることです。「私は悪くない！誰かが勝手に私の心を汚したのよ！」「汚くないけど、汚いと思うなら聖めてください」ではいけません。クリーニングにシミのついた服を出す時「ここにシミがついています」と言いますよね？それと同じです。神さまに、私たちの罪、傷、痛みをきちんと伝えなければいけません。自分には罪なんて無い・・・と思う人もいるかもしれませんが、聖書では神さまの考えに背くことが罪です。そしてその罪が私たちをダメにします。悪魔が私たちをダメにするのでは無く、私たち自身の罪が私たちをダメにするのです。そしてこの罪を放っておくとだんだん心が病にむしばまれていきます。罪を認めないと自分の心の状態も分からなくなってしまっ、だんだん頼りにしている神さまの前に出てお祈りするのもしやになっ、でも癒やされればだんだん行きたくなくなり。神さまの前に出るといことはそういうことです。私たちの心にある汚い部分に私たちが気づいて、それを神さまにさらけ出すのです。そして神さまに「神さま、わたしの心を聖めてください」とお祈りするその姿勢が私たちに聖めるのです。

聖書で「聖く保つ」の言語を見ると「水で洗う」という意味をもっています。私たちは外側も水で洗ってキレイにします。イエスさまは私たちの罪を聖める時、命がけの血の水で聖められました。だから私たちが十字架に目を向け、イエスさまに感謝の心に向けた時点で自分の心を聖く保つことができるのです。

神さまの前に出る時、心のすべてをさらけ出すのが条件です。ふたをしてしまっ、はいけません。(エペソ1：4～7) 天の神さまは、イエスさまによって、あらかじめ私たちを自分の子として選んでいるということです。それは肝硬変ようになってしまっている私たちの心を癒やすためです。そして私たちにいつも健康でいてもらうためです。それは、天の神さまが私たちを愛してやまないの元気でいて欲しいという理由からです。神さまの罪が嫌いな理由は、私たちの元気がなくなるからです。罪の中にいる人たちは、罪を持ち続けたまま生きていくのです。私たちがダメにするのは罪です。だからその罪を取り除くためにイエスさまは、私たちが生まれる前から心を磨き備えをされていたのです。私たちが平安であるために神さまの前に出て、神さまに心を磨いてもらいましょう。

汚れに敏感に！

そのために①汚れに敏感に！クリーンな生活をしてください。「敏感」になることは大切です。悪い事・罪とは繰り返すと心が鈍感になってしまいます。この鈍感がさらにエスカレートすると記憶まで置き換えられてしまっ「自分は悪くない」と罪を認められなくなっ、です。ですから敏感でいることが大切なのです。(エペソ5：26・27) 教会って何ですか？建物ではありません。私たちのことです。私たちの心がキレイでなければいけません。

宝を荒れさせてはダメ！

だからイエスさまは、②宝を荒れさせてはダメ！...このようなたとえ話をされました。(マタイ13：44～46) ここに書かれている「人」はイエス・キリストのことです。そして「畑」は教会です。そして神さまは、この教会の中から宝を見つけたと書かれています。神さまは、教会の中から私たち・宝を見つけたと語っています。だけど、その畑は荒れていたのです。イエスさまは私たちに会っ、その荒れ地をキレイにしてくださいました。私たちの心にある私たちの宝を神さまは見つけたのです。神さまが見つけた宝つまり私たちは教会そのものです。だけど、私たちそのものが荒れ果てていたのでイエスさまは十字架で購い、この宝を人目につかないようにそっ、と隠して大喜びしているのです。だから私たちの心にある宝は、なかなか人に理解されません。だけどイエスさまのことを知っている私たちはお互いにその宝に少しずつ気づいていきます。自分の宝に気づいた人は隣人の宝に気づきます。そうするとその人が自分の宝と伴って必要であることに気づきます。それが「神の家族」です。私たちの畑は荒れていて教会は崩れていたかもしれません。人が近寄れない廃墟になっていたかもしれません。でも、その中にすばらしい宝が隠されていたのです。その他からのためにイエス・キリストが十字架にかかって、荒れ地を復興し続けるのです。継続して荒れ地をキレイにし続けてくれるのです。なぜならば、私たちは、荒れ地＝私たちの心がキレイにされて自分たちの宝に気づいて私たちはやる気が出ますが、神さまの前から離れるとまたその宝を見失っ、廃墟になってしまいます。これが日々・毎日起きます。だけど、イエスさまは諦めないで私たちが天の御国に帰るその時まで私たちの宝を磨き続けるのです。私たちの教会を復興し続けるのです。神さまは、私たちの道を作り続けます。だから私たちはその神さまが作られた道を喜んで歩いて行かなければいけません。

元に戻るな！

そして、私たちがすべきことは③元に戻るな！エジプトからの脱出です。神さまは「昔に目を向ける」失敗をすると言っています。悪魔は「昔の方が良かったろう」「前のことを思い出してごらん」と不安をまき、過去に引き戻そうとします。なぜかという、未来・将来は神さまの者なので、悪魔は過去のことにしか働きかけられないからです。悪魔は、過去の記憶で縛り付け、過去に捕らわれるように仕向けることで私たちの未来や将来をダメにしようとしているのです。だから私たちは元、過去に戻ってはいけません。せつ、かく汚れを落とすキレイになったのだから、また汚れに行っ、はいけません。(Ⅱペテロ2：19～22) これは私たちが悪いのではありません。悪魔の鎖に縛られてしまっ、ただなのです。神さまは私たちを自由にしました。でも、悪魔は見えない鎖で私たちを縛ろうとします。実体はありませんが、過去の記憶や思い出を使っ「自分はダメ人間」というレッテルを自分で貼らせて、昔の自分に引き戻そうとするのです。だから私たちは元に戻ってはいけません。それが私たちの決断なのです。一度聖められたものをまた汚れていると思っ、罪です。だから神さまに「私たちが戻らない！繰り返さない！」と祈りましよう。そしてたとえ失敗しても自分をダメだと思っ、必要はありません。素直に「心を汚してごめんなさい」と言いましよう。

(要約者：行司 佳世)